

もうすぐ、春ですね

株式会社 榎戸材木店
会長 榎戸 正人

この原稿を書いているのは2月初めなので気が早いテーマですが、掲載される3月初めには春の足音が聞かれ始めるでしょう。地球温暖化の影響なのか、桜の開花時期が年々早まり、昔は4月の入学式頃が満開で、入学した新小学生たちは真新しいランドセルを背負い、桜吹雪の中を学校に通うのが日本の春の景色でした。

ところが最近では開花が早まったために、4月初めにはもうほとんど散ってしまっています。子供たちは歩道に落ちた花びらを踏みながらの登校……なんだか寂しい風景です。だからと言って入学式を3月に前倒しするわけにもいきませんから、なるべく開花の遅い品種を探して、せめて学校の校門前だけでも植えて欲しいものです。

しかし、私にとっては春が早まるのは嬉しい。薪ストーブの季節が終わってくれる。さすがに70歳を過ぎると、毎日のように段ボール箱に3箱、4箱の薪を車に積んで家に持ち帰るのは重労働です。そもそも、その薪をカットして作る所から始めなくてはならない。

でも、喜ばしいのは東の間。すぐにまた、極暑の夏がやってきます。なんだか最近、春と秋が短く、春が来たと思ったらアッと言う間に夏。秋が来てヤレヤレと思うと、すぐに北国からは冬の便り。地球がせっかちになったのでしょうか？

極端から極端への変化は気温だけではありません。地球規模で雨の降り方にも大きな変化があり、干ばつで農作物が取れずに苦しむ国があるかと思うと、一昨年のパキスタンのように大雨が続き、なんと国土の2/3が水没するなどと言う聞いたこともない大災害が起こります。これは一時的な現象とは思えないので、例年のように世界各地で干ばつ地域と水害地域が発生するのでしょうか。

その点、日本は干ばつ被害も少なく、昨年は秋田で大雨被害はありましたが、全国を見渡せば農耕が出来る地域はたくさんあります。農業は手間のかかる産業で、高齢化に伴い耕作放棄地が増えるのは仕方が無いなどとあきらめてはいけません。

人が口にする農作物は味がどうの、品質がどうのとうるさいですが、飼料用穀物であればそれほど手間を掛けずに生産できます。耕作放棄地をトラクターで耕して、ドローンで飼料用トウモロコシのタネを蒔き、時々、ドローンで肥料をやれば夏には収穫できます。病虫害もドローンで観察する技術が開発されており、その場所にだけ農薬を撒くことも出来ます。

1カ所1カ所の耕作放棄地は狭くても、近隣で何か所も利用すれば、養豚場や養鶏場が必要とする飼料は確保できると思います。ニワトリや家畜を育てても、そのエサの殆どを輸入しているのでは食料自給率は上がりません。

我が家の家庭菜園も春には種まきと苗の植え付け。この時期だからこそ、国を挙げて、国民一人一人が、食糧問題を考えなくてはなりません。毎年、春に切実に思う一言でした。